

大学生における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対する

感染予防行動、生活習慣及び危機意識との関連

環境人間学部食環境栄養課程 中出麻紀子

環境人間学部食環境栄養課程 坂本薫

環境人間学部人間形成系 内田勇人

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行により緊急事態宣言が出され、それに伴い遠隔授業が導入されるなど、大学教育体制は大きく変化した。一方、7月からは自粛生活が徐々に緩和され、本学環境人間学部でも7月から対面授業が開始された。しかし、COVID-19流行は未だ収束しておらず、教員・学生共にCOVID-19感染リスクと隣合わせの状態です。この状況は来年度も続くことが予想される。COVID-19感染予防のため、大学では教員や学生向けに感染症予防行動マニュアル、授業や通学等の対応マニュアル、COVID-19感染防止行動の資料等が配布され、校内では消毒液・体温計の設置、密を避けるための席の配置やパーテーション設置などの対策がとられた。しかしその一方で、大学生が現在どの程度COVID-19感染に対する危機意識を持って来学しているのかは不明である。以前、自粛期間中に歩く若者など、若年者におけるCOVID-19感染危機意識の欠如がニュースで報じられ問題となった。この様に、もし危機意識のない学生がいる場合、それは今後、本学部におけるCOVID-19クラスターの発生にも繋がりがかねない。そこで本研究では、①大学生におけるCOVID-19に対する危機意識や感染予防行動、生活習慣の現状について把握すること、②危機意識のない学生の特徴（感染予防行動、生活習慣）について明らかにし、今後の大学におけるCOVID-19感染防止対策の基礎資料とすることを目的とした。

2. 調査方法

兵庫県立大学環境人間学部の1～4年次の大学生及び大学院生を対象に、2020年12月5日及び6日の健康診断時に合わせてGoogleフォームによる無記名式の自記式質問紙調査を実施した。大学に来学した841名中、663名が調査に回答した（回答率78.8%）。そのうち解析に用いる項目に全て回答があった547名を解析対象者とした。質問紙では、属性（性別、学年、現在の居住県、所属、現在の居住形態、通学時間、通学の際の公共交通機関利用の有無、経済的なゆとり）、感染予防行動の有無、現在の生活習慣、2020年2月以前と比較した現在の生活習慣や生活習慣の変化、経済的なゆとりの変化の有無について尋ねた。危機意識のない学生の特徴につ

いての解析では、「あなたはCOVID-19流行に対する危機感がありますか」という質問に対し、「危機感がある」または「やや危機感がある」とした学生を危機意識のある学生、「やや危機感はない」「危機感はない」と回答した学生を危機意識のない学生として2群に分け、上記項目についてカイ二乗検定又はFisherの正確確率検定を用いて比較を行った。

3. 結果

3.1 大学生におけるCOVID-19に対する危機意識や感染予防行動、生活習慣の現状

解析対象者547名のうち、男子学生は14.3%、女子学生は85.7%であった。また、1年生は26.0%、2年生は27.1%、3年生は24.5%、4年生は21.0%、大学院生は1.5%であった。COVID-19に関する新聞、インターネット、TVからの情報収集を常に行っている人は75.7%、大学の「新型コロナウイルス感染拡大防止行動について」（令和2年10月1日）の資料や「学生や同居する家族等に感染が疑われる・感染した場合等における対応」（令和2年11月4日）の資料を読んだことがある人はそれぞれ67.6%、63.3%であった。大学に来る日に毎回検温をしている人は19.0%、教室や研究室に入る前の手洗い、手指消毒を毎回している人は50.3%、食事前の手洗い、手指消毒を毎回している人は56.9%であった。一方、昼食時に仕切りが無くマスクも無い状態で、1m以内で友人等と顔を見て話しながら食べることがよくある/時々あると回答した人は76.1%、発熱した場合に病院を受診しない/おそらく受診しないと回答した人は15.5%であった。5月の緊急事態宣言解除以降、旅行に行ったこと（または今後行く予定）がある人は49.7%、緊急事態宣言解除以降、5人以上の友人・知人と一緒に外食をしたこと（または今後する予定）がある人は55.0%、Go To トラベルを利用したこと（または今後利用する予定）がある人は46.3%、Go to Eat を利用した外食をしたこと（または今後する予定）がある人は24.5%であった。

生活習慣については、現在アルバイトを週1日以上実施している人は74.1%、クラブ・サークル活動、学生団体活動、ボランティア活動を週1日以上行っている人は23.0%であった。2020年2月以前と比較し、アルバイト日数が減った/やや減ったと回答した人は39.7%、クラブ・サークル活動、学生団体

活動、ボランティア活動が減った/やや減ったと回答した人は 77.2%であった。その他、減った/やや減ったと回答した人の割合が高かったのは、通学、アルバイト、クラブ・サークル活動、学生団体活動、ボランティア活動以外の友人等との外出日数(75.9%)、外食日数(68.0%)であった。

3.2 危機意識のない学生の特徴

COVID-19 流行に対する危機意識がある人は 490 名(89.6%)、ない人は 57 名(10.4%)であった。危機意識がある学生と無い学生で属性、感染予防行動の有無、現在の生活習慣、2020 年 2 月以前と比較した現在の生活習慣や経済状況の変化の有無について比較したところ、危機意識がある人はいない人と比較して COVID-19 に関する新聞、インターネット、TV からの情報収集をしている人や大学からの資料を読んだことがある人、大学に来る日に毎回・時々検温をしている人、教室や研究室に入る前や食事前に毎回手洗い・手指消毒をしている人、発熱の場合に病院を受診する/おそらく受診すると回答した人が多かった。また、緊急事態宣言解除以降、5 人以上の友人・知人と外食したこと(または今後する予定)の人が有意に少なく、有意な関連が見られた。さらに、2020 年 2 月以前と比較し、通学、アルバイト、クラブ・サークル活動・学生団体活動・ボランティア活動以外の友人との外出頻度が減った/やや減ったと回答した人、経済的ゆとりが出た/ややゆとりが出たと回答した人が多く、有意な関連が認められた。

4. 考察

本研究結果から、本学部の学生は COVID-19 流行に対する危機意識が高く、COVID-19 流行前と比較してクラブ・サークル活動、学生団体活動、ボランティア活動、及び友人等との外出日数、外食日数が減った人が多いことが明らかとなった。2020 年 4 月に全国の大学生を対象に実施された調査¹⁾によると、「現在、日常生活全般において、感染症への感染の不安をどの程度感じているか」という質問に対し、非常に不安/不安/すこし不安と回答した学生は 93.5%であり、本調査と調査時期は異なるものの、COVID-19 に対する危機感を持っている大学生は全国的に多いと考えられる。しかし一方で、本調査において大学に来る日に毎回検温をする学生は約 2 割、教室や研究室に入る前や、食事前における手洗いや手指消毒を毎回している人は約 5 割しかおらず、今後、検温や手洗い・手指消毒を学生により徹底していく必要があると考えられる。また、特に問題と思われたのが、昼食時に仕切りが無くマスクも無い状態で、1m 以内で友人等と顔を見て話しながら食することがあると回答した人が約 7 割いたことである。本学部の学生食堂ではテーブル上に、前や横を区切るパーテーションが設けられているが、

後ろに椅子を引き、パーテーションをよけて隣の学生と会話したり、背中合わせに座っている学生と振り向いて会話したりする学生も見受けられる。また、弁当を持参するなど、学生食堂以外で昼食を食べるケースもある。食事時の会話禁止については本調査日以降に掲示物、メール等により周知されたが、感染防止のためには、今後、飲食可能なフェイスシールドを着用してもらうなどの対策が必要かもしれない。さらに、発熱した場合に病院を受診しない/おそらく受診しないと回答した学生も約 1 割いた。病院を受診しないと回答した学生は経済的に厳しい学生が多いのではないかと考え、結果に示していないが、経済的ゆとりの有無と病院受診の有無についてカイ 2 乗検定を行った。しかし有意な関連は認められなかったことから、医療費が支払えなくて病院を受診しないというよりは、自分がもし COVID-19 と診断された場合の周囲からの反応や、授業休講など多くの学生や教員に影響が及ぶことなどを危惧して受診しないのかもしれない。今後、発熱の際に病院を受診しない理由についての調査と、その理由に基づく対処が必要であると考えられる。

危機意識がある学生とない学生の比較では、危機意識がある学生は少ない学生と比較して COVID-19 に関する情報収集をしている、大学に来る日の検温、手洗いや手指消毒を行う人が多く、友人等との外出を控えるなど、より感染予防行動を実施しているという結果が得られた。危機意識が低い学生の割合は少なかったものの、今後、COVID-19 の感染予防行動をより徹底するために、危機意識がない学生に対し、COVID-19 に感染した場合、必ずしも無症状や軽症で済むとは限らないこと、もし自分が感染した場合に周囲の人にも感染させるリスクが高まることなどを周知し、意識を変えていく必要があると思われる。

最後に、本研究には限界点がある。本調査は 2020 年 12 月時点での調査結果であり、状況が刻々と変化する中、必ずしも現状が調査時点と同じ状況であるかは不明である。大学に来る日の検温や手洗い・手指消毒の状況などは、今後も継続的にモニタリングしていく必要があると考えられる。また、本調査結果は 1 学部の結果であり、元々女子学生が多い学部であったことから、対象者の約 8 割を女子学生が占めていた。結果を一般化するためには、男子学生を対象とした調査や他学部でも同様の検討を行う必要がある。

引用文献

1) 藤本淳也、福田一儀、鳥山稔、松永敬子、江原謙介. 大学生への新型コロナウイルス感染症拡大の影響報告書(完成版) 2020 年 4 月 13 日.
<https://www.univas.jp/uploads/2020/04/6c5875a1cbd3f60e193af2fbc62dc97d.pdf>